令和６年４月２１日　仙台医療圏の病院再編地域説明会（第５回）　質疑応答要旨

問１　病院再編について、これまで医療機能の充実を要望してきた名取市だが、昨年１２月に日本赤十字社と宮城県、宮城県立病院機構の三者で基本合意が締結され、名取市が提案した植松入生地区に令和１０年度を目途に新病院が開院されることについては、地元の要望を受け入れていただいたものであり、名取市商工会として歓迎を申し上げる。名取市は鉄道や高速道路など交通の利便性が高く、昨年は大手自動車部品メーカーの立地が発表されたほか、市街地開発も予定されていることから、今後も企業の立地が進むものと考えている。また、一貫して人口が増え続けており、まもなく８万人になろうとしているが、名取市には二次救急を受け入れる医療機関がなく、長年、病院の立地が望まれてきたところである。救急搬送では、県内平均の約５０分に対し８分ほど多くかかっているとのことだが、新病院の立地により、搬送時間短縮が期待されるところであり、また災害拠点病院としても貢献いただけるとのことで、市内に立地する企業をはじめ、名取市民の暮らしにとって大きな安心材料になるものであり、名取市の魅力を更に高めることになるものと期待している。新病院関係者の皆様におかれては、早期の開院に向け、御尽力をいただけるよう、よろしくお願い申し上げる。

答１
　救急については、県としても非常に大きな課題解決につながるのではないかと考えています。名取市において、初期救急など御対応いただいていますが、名取市内には、現在、救急告示医療機関がない状況であり、断らない二次救急に対応できる医療機関の立地は、非常に大きな効果があると思うので、引き続き御理解いただきながら検討を進めてまいります。

問２　名取市に住む一主婦の感覚だが、少し前までは名取市に総合病院が来るという話は、夢のような話であった。今日説明を丁寧にしていただいて大変待ち遠しく、嬉しい気持ちでいる。子育てをしてきた者にとっては、やはり日赤といえば、周産期や小児科が充実しているという認識である。これまではリスクのある妊婦が大きなお腹を抱えて仙台の病院まで通院しなければならない必要があったり、検査が必要な乳幼児がチャイルドシードに座って遠い病院まで治療に行くということが普通の感覚であったが、今後は近くに高い技術のある医療機関が来るということで、非常に安心だと思っており、仙南地域の子育て世代の方にとっても、安心の実現になると感じている。
　また、救急に関して、両親も何度か救急車にお世話になり、仙台市の病院に入院して、治療していただいたが、両親のような高齢の夫婦にとっては、遠い病院への面会というものが非常に大変な状況であった。病院の先生から、急変したのですぐ来てくださいという電話が何度もあったが、移動に１時間かかるため、ハラハラしながら、間に合うのか間に合わないかという気持ちも抱えていたという経験がある。どの世代にあっても病院が来ることは、日常を支えるという事に大きく関わってく

ると思うので、一日も早く実現していただきたい。

答２
　地域の住民の方、患者、御家族の方としての貴重な御意見を頂戴し、県としては、病院再編の実現に向けて、しっかりと検討を進めてまいりたいと思います。

問３　病院再編について、地元の方にとっては、非常に歓迎すべきことだということは十分理解したところである。一方で、仙台赤十字病院は今、外来が１日 520 人で、がんセンターが１日 230 人である。県が公表している資料では、新病院の外来がトータルで 600 人※という予測になっており、仙台赤十字病院が今 520 人から 370 人に減るため、仙台赤十字病院は 1/4 ぐらい縮小した形で名取の植松に立地されることになる。東北労災病院については、外来が１日 980 人だが、富谷に立地した場合は、急性期が 300 人ほど※になると予測されており、約半分に減ってしまう。そうすると、仙台赤十字病院と東北労災病院合わせて１日 550 人くらいが減る形になってしまう。名取の方々にとっては非常に歓迎するものだが、仙台医療圏全体では、仙台赤十字病院が一つ無くなるくらいの影響が出てくる。仮に 550 人の外来患者が仙台市立病院に集中すると、現在の 1.5 倍以上の受け入れになってしまい、仙台市立病院がパンクしてしまう。仙台市立病院に全部集中するわけではないと思うが、二つ三つに分散したとしても数百人単位で外来患者が増えてしまう。仙台医療圏全体で見ると、医療水準が低下することになる。要因としては、名取市植松や富谷の立地場所の需要が、今の立地場所よりも需要が小さいことによるものである。病院を均等に配置するという意味からすると良いとは思うが、仙台医療圏全体として、医療提供体制が低下してしまっては困る。県は、名取市や富谷市から提案があった土地を既定のような形で検討しているが、どこに需要があるかをマーケティングリサーチしてから検討する必要があるのではないか。

答３
　今後、人口は急速に減少していくことが予想されており、将来的な人口推計上、外来も入院も含めた医療需要が減っていくということが一つ挙げられます。また、病院の機能としても高度急性期から急性期、慢性期、回復期といった中で、それぞれの病院間の連携体制をこれまで以上に強化し構築していくことによって、受入能力を高めていくことが重要だと思っています。特に急性期については、受入能力が仙台市を含めた仙台医療圏全体で過剰な状況であり、人口が減っていく中で、急性期をどのように受け止めて、回復期、慢性期、外来も含めてしっかりと課題解決につなげていくのかといった御指摘については、今後協議の中で検討してまいりたいと思います。
　その上で、立地場所について御提案いただいた場所を、非常にありがたいこととして受け止め、そこを前提に進めさせていただいているところですが、当然その立地場所における将来的な経営の在り方についても、医療圏患者の動向であったり、需要等についてはシミュレーションをしっかりした上で、今後も進めてまいります。何よりも経営が成り立たないことには病院が持続できないため、御指摘の内容も重々踏まえ

ながら、更に議論を深めてまいりたいと思います。
（※補足）令和５年４月の宮城県議会環境福祉委員会において、仙台赤十字病院と県立がんセンター統合後の新病院の推計需要を 417～622（人/日）と公表していますが、当該数値は入院需要であり、外来需要ではありません。
　また、東北労災病院と精神医療センターが合築を予定する新病院における急性期の推計患者数についても、外来患者ではなく入院患者の推計値を公表しています。
　今後も、医療需要などを考慮しながら、新病院の具体的な機能等を検討してまいります。

問４　宮城県の最大都市である仙台市と行政も含めて、しっかりと枠組みを話し合っていくべきであるのに、仙台市とほとんど話も行われていない。こういう問題は幅広く、時間をかけて意見を聞いて進めるのが当たり前である。しかし、今回の話は、肝心の仙台市が入らずに進めているとはどういうことか。名取市長には、もう少し名取市民の意見をいろいろ幅広く聞くべきであるということを伝えさせていただく。
　今回、病院関係者も出席しているが、なぜ医療関係者の８割ぐらいの方が反対しているのかというと、それなりの理由がある。それを無視して、市町の長を集めて多数決を作って持っていこうというのはとんでもないことである。知事には厳しい意見が出たということを伝えていただきたい。

答４
　（宮城県）病院再編については、知事がトップダウンで、かつ思いつきで発想したというものではなく、医療関係者の方々のお話を踏まえた上で進めているものです。仙台市については、病院再編について反対と言っているわけではなく、まだ内容が定まっていないため評価ができないということだと県としては受け止めています。実際、仙台市とは２月から、具体的な課題を互いに出し合って協議をしているところです。その中で、例えば救急搬送の問題について、仙台市としては、二次救急で救急搬送を受け入れる病院が仙台市内から二つ無くなることで影響が生じる可能性があることに大きな課題を感じていると認識しております。県としては、地域の方々や医療関係者の方々の御理解をいただきながら、進めていきたいと考えております。

　（名取市）頂いた御意見については、受け止めさせていただきます。

問５　精神医療センターについて、いろいろと案を提示されているが、ある程度固まってから提示していただければと思う。精神障害者は疲弊している。
　県の事務方からは、繰り返し説明をいただいてきたが、そろそろ政治家の出番だと思うので、ぜひ各首長の意見を伺いたい。
　また、各首長が新病院に対する要望があれば伺いたい。

答５

（宮城県）精神医療センターについて、県が提示している案が何度か変わっていることで御心配をおかけし、特に患者の方々に不安を与えているという面があるということについては県としても認識しています。ある程度決まってから案をお示しした方が良いということでありましたが､経営に関してなど公開できない部分があるものの、検討段階であっても、できる限り県が考える案をお示ししながら協議を進めていきたいと考えていますので、御理解いただければと思います。一方で、それが逆に不安を与えることにつながる可能性があるかもしれませんので、引き続きしっかりと皆さんの御意見を伺いながら、進めてまいりたいと考えています。

（名取市）これまでも、特に精神医療センターの関係では、当事者の方やグループホームを運営される法人の方などのお話も聞いて、名取市として、県に配慮いただくよう要望してきたところです。

県に要望することとして、名取市に整備が予定されている新病院については、これから病床数や診療科目などが決められてくると思うので、できるだけ医療機能を充実させていただきたいと思います。

また、精神医療センターについては、名取に分院を設置する案ということで、従来から申し上げてきたとおり、関係者や当事者の声をよく聞いて、慎重に進めていただきたいということは、これからも繰り返し要望していきたいと思っています。

（岩沼市）知事の、今回の決断に関しては、大賛成だということを言わせていただきましたが、妄信的に言っているわけではなく、政治家としての判断、決断に対しては大賛成だと言わせていただいています。岩沼市長の立場としては、総合南東北病院があり、これまで二次救急をしっかり支えてきた中で、今回、新病院が名取市植松入生地区に来るということで、両病院の経営が成り立つように考えていただきたいということは、現場サイドではしっかり言わせていただいています。

そして、もう一つスズキ記念病院があり、生殖医療などをやっている病院ですが、仙台赤十字病院が来るということで、様々な部分で診療科目が被るところもあるのではないかと思っています。これまで、仙南２市２町だけでなく、仙南広域を支えてきたこの病院に対して、両病院の経営状態が悪くなるようなことがあってはいけない。それこそ地域に住む住民にとっては不幸な結果になると思っていますので、そこはしっかり現場サイドで、色々と話し合いをさせていただきたいということは言わせていただいています。

やはり言うべきことはしっかりと言わせていただいて、地域の住民を守っていかなければいけないと思っていますが、今回の知事の決断については、政治家としてしっかり応援をしていきたいなと思っています。今後も、皆様に説明をして、ある程度皆さんが理解できるような落としどころを探っていただけると思っていますので、大きく支持をさせていただきます。

（亘理町）病院再編については、課題も多く、地域の声をよく聞きながら、計画を進めることで、患者の方々が安心して治療を受けられ、皆さんに愛される病院というものを目指していただければと考えています。亘理町の場合、残念ながら病院がございませんので、隣の岩沼市の総合南東北病院、そして山元町の宮城病院に救急を頼っている状況です。個人の診療所で診ることもありますが、ほとんどが先ほどの二つの病院、そして、どうしてもそこで受け入れられない場合は、半数以上が仙台市内に搬送されており、あぶくま消防本部で、県平均より１０分ほど多く時間がかかっているとのことですが、実は亘理町と山元町はそれ以上にかかっていると認識しているところです。そのため、名取に新しい病院ができ、そこで断らない救急を掲げていただいている以上、町民の方々にとっての安心安全が今までよりも充実するだろうと感じているところです。そういう意味で、賛成をしていますが、課題も多くあるという認識ですので、その辺は丁寧に県民の方々、地域の方々、そして患者の方々の声を聞いていただきながら、皆さんに愛される病院になっていただきたいと思っています。

（山元町）町民の生命を守るということが、一番大事であると考えています。山元町の場合、地元に宮城病院、南に行くと相馬公立病院があり、そこまでであればそれほど時間がかからずに行けるのですが、受け入れ態勢などを見ていると、救急隊が病院を決めるまでの時間も結構かかっているのが現状です。仙台赤十字病院が名取市に来ていただけると、病院を探す時間を含めた搬送時間が、相当短縮できるということが一番大きな要因になります。

今回の説明会の前に、県の方ともお話をさせていただいており、反対をする方々は相当の理由があって反対をするわけですので、そういう方たちの意見を大事にして進めていただきたいということはお願いをしました。時間をかけて議論して進めてほしいという意見もいただき、私もそのように思います。しかし、時間をだらだらかけ過ぎても良くないと思うので、その辺の決断というのが政治家なのかなと思います。県からは、反対の方々の意見をよく聞いて、前に進めていきたいと伺っていましたので、相対的に考えれば、山元町としては名取に仙台赤十字病院が来ていただけるということは、町民にとっては素晴らしいことだと考えていますので、賛成の立場でいますが、進めるに当たっては、不利益を被る方も一部いるかと思いますので、そういった方々のことをよく考えながら進めていただければと思っています。

問６　病院再編について、賛成の立場で申し上げる。私の父は、自宅でふらついて倒れ、すぐ救急車をお願いしたが、正月ということもあり、救急隊員が病院を一生懸命尋ね、病院が決まるまで２０分から３０分くらい時間がかかり、倒れてから病院に着くまでトータルで１時間は超えたかと思う。もし仮に１分１秒でも速く病院に着いていれば軽度の症状で退院したかもしれないと思うと、いたたまれない気持ちになる。生きていく上で何が大事かといえば命だと思うので、この命を守るためにぜひとも病院の移転を早期に実現していただきたい。

答６
　命を守る可能性を少しでも広げるということは大事だと思っており、県としても、特に救急搬送の在り方ということを大きな課題として考えております。宮城県の救急搬送時間の平均は 49.6 分で、全国 43 位と、かなり搬送時間が長くなっていることから、１分１秒でも縮めることが重要であると考えています。救急搬送時間は大きく三つに分けられており、救急車が現場まで行く時間、現場に留まっている時間、現場から医療機関に行く時間の三つに分けられますが、実は一番長く時間がかかっているのが現場に留まっている時間です。搬送先を探して調整するための時間が一番長いという現状であり、断らない救急の体制をつくることが大事だということを仙台市と協議を進めているところです。これは病院の配置に留まらず、救急の専門医の育成に関して、県としても関わっていく必要があると考えています。様々な課題がありますが、非常に大事なことだと受け止めさせていただきますので、引き続き御理解いただければと思います。

問７　精神医療センターの家族会の一員として、この案に関しては賛成である。３年ほど前、精神医療センターでコロナワクチンを接種したところ、５時間後に４０度の熱を出した患者がいたが、精神医療センターでは何もできないため、がんセンターに頼ったがそれでもダメだった。その後、仙台市立病院に救急搬送され、２週間入院後、回復したという状況であった。精神医療センターは、他県の例でも分かるように、身体合併症についての治療はできないということで、本当に切実な問題である。今回の合築という案は非常によく考えられた案だと思う。我々の税金が使われている県立病院である精神医療センターやがんセンターの在り方というものに関して、よく考えるべきである。私も八木山にいた際、両親や自分自身も仙台赤十字病院にお世話になっていたが、今はもう仙台市立病院に患者が流れていると思う。仙台赤十字病院が宮城県から無くなってしまうと、石巻の赤十字病院しかなくなってしまうかもしれず、そうなってしまうと困るので、名取に病院が移転されるということは非常に望ましいことだと思う。石巻赤十字病院は、能登の地震の際にも、一番最初くらいにＤＭＡＴが派遣されたことから考えると、日赤と連携が取れば非常に良い効果が得られると思う。
　がんセンターについては、肺がんや胃がんなどに対しては、いろいろな病院でも対応できるようになってきているので、がんセンターの役割としては、県民へのがんに対する啓蒙活動と、がんの最新治療、技術の集約と、病院に必要な情報を即座に伝えられるというような役割を持つべきである。総合病院の形をしたがんセンターは、経営上は成り立たないのではないかと思っている。具体的な中身の案は出ていないが、がんセンターや精神医療センターについて、担うべき役割についてよく考えるべきだと思う。

答７

　精神医療センターに関して、身体合併症対応というのは大きな課題であり、それを基に総合病院である東北労災病院との合築という方向性で考えており、現在、名取に分院を設置する案を含めた具体的な在り方を検討していますので、できる限り早い時期に改めて説明できるようにしてまいりたいと思っています。

　また、がんセンターの在り方についても、がん医療の均てん化が進む中で、県立病院としての在り方の見直しをしているところですので、引き続き検討を進めてまいりたいと思っています。